

令和7年度 狭山市立狭山台中学校学校関係者評価表

※ 学校が行った自己評価の結果及びそれを踏まえた今後の改善方策について評価する。

※ 【評価の目安】

- A：よくできている。(90%以上)
- B：概ねできている。(85%以上)
- C：あまりできていない。(70%以上)
- D：できていない。(70%未満)

領域	番号	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員から 評価(文章表記)
			評価	説明	
学校運営全般	1	学校の重点目標が明確である。	A		<p>○学校の重点目標は明確であり、児童生徒・教職員とも高評価であることから学校運営は良好。</p> <p>○学校運営協議会やスクリレによる配信でタイムリーな情報提供がされている。</p> <p>○タブレットや電子黒板などが導入されているが、機器の不具合で授業が滞ることがあり、通信能力の改善や保守の仕組みを整備する必要があると思われる。</p> <p>○学校の施設や設備の修繕は安全を第一に考えておこなっていただきたい。</p> <p>○黙々清掃は狭山台中ブランドの一つであり学校がきれいに保たれている印象がある。</p> <p>○学校は安全な場所として、予算関係なく管理は重要課題である。</p> <p>○空調等は故障時に速やかな予算執行ができるよう寛大な措置が必要。</p>
	2	児童生徒は、学校生活が楽しいと感じている。	A	目指す学校像を「生徒の心に灯をともし学校」と定め、学力向上、不登校の減少、豊かな心の育成等を重点に学校運営に取り組んだ。「学校生活が楽しい」の項目については、保護者評価において89.0%、生徒評価において97.6%となっている。	
	3	教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる。	A	施設・設備の安全管理については、適宜修繕を行っているが、予算の関係もあるため、優先順位をつけて修繕を進めている現状である。	
	4	清掃が行き届き、学校がきれいである。	A		
	5	学校の施設・設備は安全に管理されている。	B		
学習	6	教師は、児童生徒が興味関心のもてる授業、わかりやすい授業を実施している。	B	「令和の日本型学校教育を実現するための教員の授業力向上」を主題として校内研究に取り組んだ成果もあり、「授業がわかりやすい」という評価項目については、向上がみられる。しかし、全国・県学力学習状況調査の結果を見ると、県平均を下回る正答率となっているため、改善のための取組が求められている。	<p>○授業力向上に係る研究発表の成果が学校評価に現れたのは良い。</p> <p>○キャリア教育など児童生徒が興味関心を持つ授業に取り組んでいる。</p> <p>○低位層の学力の底上げが必要。</p> <p>○復習のサポートは、地域のボランティアの活用を図ると良い。</p> <p>○基礎学力を上げるためには何をどのように勉強すればいいのかなどの指導が必要。</p> <p>○家庭学習の習慣化は小中連携が不可欠。</p>
	7	児童生徒は、落ち着いて学習に取り組んでいる。	A		
	8	児童生徒は、基礎的基本的な学力を身に付けている。	C	家庭学習が習慣づいている生徒は64.5%にとどまっているため、家庭学習の定着を図ることで、基礎基本の学力定着にも結び付けたい。	
	9	児童生徒は、家庭学習の習慣を身に付けている。	D		
	10	児童生徒は、英語活動をとおして積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。	B		
規律ある態度	11	児童生徒は、進んであいさつをしている。	C	明るいあいさつ元気な返事、時間を守る、正しい言葉遣い等をまとめた「当たり前10か条」を掲げた規律の意識化や、あいさつ・無言清掃を「台中ブランド」といった取組を行っているが、まだまだ課題である。保護者からのアンケートでも、あいさつの項目は80%未満の肯定的回答にとどまっている。この点については、教師が率先垂範して気持ちの良い挨拶を広めていくという意識がまだ弱い。	<p>○児童生徒の風紀の乱れはみられず、礼儀正しい行動ができていると思う。</p> <p>○挨拶が弱くなっていると感じている。学校の内外でのあいさつを大事にしたい。</p> <p>○「狭山台中当たり前10か条」、「台中ブランド」は、大人になっても大事な要素がたくさん含まれているので、意味や目的を理解して生徒も教師も意識をもって取り組んでほしい。</p>
	12	児童生徒は、場に応じた言葉遣いができている。	B		
	13	児童生徒は、時間を守って生活している。	A		
	14	児童生徒は、きまりを守って生活している。	A		
	15	教師は、自ら手本となり、規範意識を高めている。	B		
健康・体力	16	学校は、児童生徒の体力を高めている。	C	多くの生徒が昼休みに校庭に出て遊ぶ姿が見られる。体育の授業が好きだという生徒も多い。一方で、体力テストの結果は昨年度に引き続き、県平均を下回る種目が多数ある。日々の授業の中で体力向上の取り組みを増やしていきたい。	<p>○保健室の取組として、廊下の掲示・展示等による啓発活動がとても良い。</p> <p>○社会人スポーツの選手と触れ合うなど、運動に興味を持たせる機会を増やせると良い。</p> <p>○体力テストの結果は、小学生の時からの影響もあるように思う。</p> <p>○体力について、昨年に続きC評価は残念。体力向上の手立てを運動部活動に委ねることができない時代だからこそ、学校体育授業の充実が一層求められる。</p>
	17	児童生徒は、体育や外遊びに意欲的に取り組んでいる。	A		
	18	児童生徒は、健康を意識した生活をしている。	B		
地域との連携	19	学校は、教育活動に関する様々な情報を積極的に提供している。	A		<p>○学校運営協議会を核として、地域が行動する必要がある。学校の施設を地域がもっと気軽に利用できる機会を多くしたい。</p> <p>○生徒や保護者がもっと積極的に地域と関わってほしい。</p> <p>○地域の活動への関わり方が難しい時代だが、勤務の振替等の措置を講じながら協力を惜しまない姿勢は大事。</p> <p>○地域連携の姿勢が管理職に留まっている印象が強く残念。</p>
	20	学校は、保護者や地域と連携・協力し、教育活動を行っている。	B	保護者アンケートでは90%を超える肯定的意見。一部生徒に限定されるが、地域総合防災訓練へのボランティアや、かるた大会への参加を促し、地域との協力を一歩進めた。	